

アンリミテッドクリエーション 第9期 年間テーマ「使命の自覚」

新年あけましておめでとうございます！ 希望に満ちた新しき年の幕も明け、スタートをいたしました！

昨年中も皆さまには大変にお世話になりました。誠にありがとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします！

毎年、恒例ではありますが、年の初めに弊社で決めた年間テーマをこの場をかりてメッセージさせて頂いております。

本年の年間テーマ・・・それは「使命の自覚」です。年間テーマ「使命の自覚」

昨年の夏に、毎年行っているクライアントの幹部・スタッフを対象にした2泊3日（2クール）のセミナーを行いました。10名ほどの参加で、業種も様々。役職も入社2年目の方から管理職と幅広く、年齢は20代から40代。

セミナー最終日の共通研鑽テーマを『使命』とし、学んでいく中で、あらためて大きな感動と発見がありました。参加者の皆さんの表情が変わるのです。目に力が入ります。一本線が入るといいますか、凜とするのです！

「使命」・・・とは、まさに「命を使う」と書きます。

何のために命を使うのか？ 何のために生まれ 何のために生きるのか？
あまりにも壮大なテーマです。常日頃から考える人も少ないでしょうし、この「使命」とのことばに、触れる機会も少ないように感じます。

私も、若いころから、「私の使命はこれだ！」との、明確なものもなかったですし、いくら考えても分からない。何も出てもきませんでした。

そんな中、縁あってアンリミテッドに入社し、創業者・及び先輩方と出会い、「使命」について話していただき、教えてくれました。またそのような先輩方の仕事ぶり・生き方を見ていく中で、「自分も、そのように生きたい！近づきたい！」と、密かに心に決め、ついていきました。様々な失敗や挫折もありましたが、その都度この「使命」を胸に、また共に「使命」を共感し合う仲間のおかげで、今現在があります。

使命

「かけがえのない使命を、人間はみんなが持っているんだ。自分でなければ果たすことのできない、あるいは自分でしか果たせない使命を持っているんだ。それを自覚できるかできないか、確認できるかできないか、発見をできるかできないかは、それぞれの人間の問題なんだ」・・・これは、創立者のことばです。

また、こうも話しています。

「皆、それぞれの使命を持っている。その人でなければ果たすことのできない、あるテーマを持って存在している。故に身代わりが利かない。絶対に。自分でしかできないからこそ、自分で生きていく必要性がある。何があっても。」

冒頭に話したセミナー参加者の皆さんから、「使命」について、対話するなかで、質問や疑問も出てきます。「使命に正解・不正解はありますか?」「会社や仕事のためではない使命はいけませんか?」「今は、『自分の使命はこう』と思っていても、途中で変わってしまってもいいのでしょうか?」などです。

答ていわく

「自分の使命を思うときに、正解も不正解もないと思います。自由におおらかに考えよう。」

「仕事や会社だけが人生の全てではないでしょう。実は会社にも使命があると思っています。勤めている会社の使命は何でしょう?これを機に考えてみませんか。」

「自分の内面は自由ですから、使命が時々、変わってもいいと思います。むしろ年齢を重ね、環境も変化し、時代も変わる中で、変わらない使命を自覚している人は何を思っているのでしょうか?どんな使命をおもちなのでしょうか?聞いてみませんか」・・・等々。

ここで言いたいことは、「自分の使命は何なのか?」と考えるいとま・時間が、大切だということです。そして、「あなたはどう思うのか?」「先輩方はどう思うのか?」との壮大なテーマに対する先輩方・若い方々との意見の交換・対話そのもの・そういう時間が、大事であると、お伝えしたいのです。

創立者のことばより

使命を知る・・・「自分の使命を知る」と言葉にするのは簡単なことです。では、必死に考え

れば自分一人で知ることができるのか。私にはできなかった。あなたにとっても取るに足りないことと思っているならば、それは違うと思う。 自分は何のためにいきているのだ、つまり、何のために自分は死ぬのだ。売り上げを1円上げるのも大事だし、原価を1円下げるのも大事だけれど、自分の人生の到達地点、あるいは方向性の確認はなお大事。誰の場合でも。 その答に気づけるのは一人では無理だとすれば、自分よりも多少なりとも造詣の深い先輩に聞きながら考えることです。

・・・とあります。

このセミナーにおいて、寝食を共にし、哲学や対話、映画や芸術にふれ、「使命」とのテーマを研鑽し、最後の日に参加者皆さんが、それぞれに「自分の使命」を語る中で、感動したことは、皆、「自分以外の人のため」との意見でした。「自分だけが幸せになればいい」と話した人は、一人もいませんでした。

・・・自分の命を使って自分以外の人のために生きる。結果的に自分も含め自分を取巻く人間空間も幸せにできる。

・・・そんな話をしているのです。

創立者のことばより

見えない力・・・人間が物を持つとき、大抵はこの手で持つことができる。しかし、同じ持つとはいっても、内面世界にしかないものは持とうと思っても持つことはできない。手の届かないところにあるから。手は不思議なことに、外側に向かってしか動かない。

使命感も勇気も、やる気もロマンも、全部、この体の中にある。中にあるものは持つのではなくて、湧き出ずるようにする。絶対に持てないのだから、自分の中にしっかりと泉を確立する。 そうして泉から湧き出でたものが外面に出てくる。さまざまなしぐさに、さまざまな言葉に、さまざまなやり方に、そして、さまざまな生き方に出てくるのだ。

ゆえに、使命感も勇気も見えないし、触ることもできないが、それは必ず存在し、そして一切ににじみ出てくるものなのです。

・・・と。

冒頭に申し上げた、セミナー参加メンバーの目の輝き、声のはり、凛とした姿は、内面から湧き出ずるものであり、使命を自覚・発見した人の、姿そのものだと確信します。

今後の未来を見据え、推進していくにあたり、順風満帆なことだけではないことも皆、承知しております。自然災害やウイルス性の病気、人手不足や、不景気問題等々。マイナスの要因を思えば、枚挙にいとまがありません。

もし、大きな壁にぶつかったときや、行き詰まりを感じたとき、思い出してください。

「行き詰ったら**原点に帰れ**」との創立者のことばを。 「行き詰ったら**原点に帰れ**」
この帰るべき原点こそ、使命感であり、使命の自覚であると、私は思っております。

大事な1年間を『使命の自覚』とのテーマで、共に闘ってまいりましょう！

以上です！！

2026 年 （株）アンリミテッドクリエーション 米原俊和